

「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」 学校支援活動の取組事例

「釜石小学校支援地域本部 ～ 地域との連携・協働による学習活動の展開 ～」（岩手県釜石市）

取組の概要や経緯

地域学校協働活動の趣旨に即しながら、東日本大震災被災地として、住民の生きがいづくりや地域コミュニティの復興促進にも寄与することを目的に、釜石小学校において学校支援地域本部(学校支援活動)を実施。学校が核となり集う場として、地域住民等との連携・協働により、地域学習の展開等、様々な教育活動を実施している。

内容

学校支援地域コーディネーターが、学校や地域との連絡調整役となり、多くの地域住民等の参画のもと、読み聞かせや図書室整備、放課後学習支援、環境学習、環境整備、登下校時の見守り、家庭科等の授業サポート等、多様な学校支援活動を実施している。

これまで行ってきた地元の特産物の販売に携わる学習では、学校支援活動により、農業・漁業体験学習(地域学習)として生産過程から学ぶ授業を展開。**農家や漁業関係者、行政部署等、専門家が参画することにより、学校単独では困難であった学習が実現されている。**



ポイント

- ① 保護者や公民館に「**学校支援活動だより**」を配付し、**情報を共有している。**
- ② コーディネーターは放課後子供教室にも携わっており、**学校外での子どもの様子の共有も図っている。**
- ③ 上記コーディネーターは事業の総括的役目も担っており、**行政主管課に席があることから、各種情報の入手や行政(市庁内部署)との連携・協力が得られやすい。**



成果

次の事業効果測定結果のとおり、学校支援活動によって、子どもや学校だけではなく地域住民等にも効用がある成果がでている。

- 子ども：知れあいが増えたと思う割合(84%) 学校に行くのが楽しくなってきたと思う割合(84%)
- 学校：地域の方々の協力により、学習面を中心として多様な教育活動が展開できている。(定性的意見)
- 学校支援活動者(地域住民等)：
自身の生きがいや自己実現になっていると思う割合(94%) 知れあいが増えたと思う割合(100%)

※H29事業効果測定アンケート結果から一部抜粋
※割合＝肯定的回答割合

今後の方向性

成果を鑑み、釜石小学校はじめ本部実施校では継続安定性を基軸としながら活動を展開していくとともに、未実施校における地域学校協働活動体制の構築を図る。